

胆道閉鎖症に対する腹腔鏡下肝門部空腸吻合： 21例の経験

順天堂大学小児外科・小児泌尿生殖器外科

山高 篤行、中村 弘樹、古賀 寛之、Joel Cazares、
宮野 剛、岡和田 学、土井 崇

【目的】胆道閉鎖症(BA)に対する腹腔鏡下肝門部空腸吻合(Lap PE)の術式ならびに術後成績を報告する。

【対象・方法】Lap PEを施行した21例。II型3例、III型18例。Syndromic BA 1例。Cytomegalovirus陽性1例。術式に関しては、Trocar position : Transection level : Roux loop作成方法 : 肝門部空腸吻合運針を供覧する。

【結果】Lap PE時の日齢は平均64.8日(29-119日)。平均術後経過観察期間は4.0年(0.7-7.4)。平均手術時間531分(240-662分)、平均出血量13.4g(3-21g)。減黄率は、術後3ヶ月で80.9%(17/21)、術後6ヶ月で90.5%(19/21)であった。自肝生存率は、術後6ヶ月 : 90.0%(18/20)、術後1年 : 78.9%(15/19)、術後2年 : 76.5%(13/17)、術後3年81.8%(9/11)であった。

3歳以上の11症例では、平均Lap PE日齢は66.6日(29-119)。平均術後経過観察期間は5.8年(3.8-7.4)。平均手術時間548分(414-662)、平均出血量12.4g(3-21)。減黄率(Total bilirubin < 1.2 mg/dL)は、術後3ヶ月で90.9%(10/11)、術後6ヶ月で100%(11/11)であった。術後6ヶ月、1年、2年、3年の自己肝生存率は、それぞれ90.9%(10/11)、81.8%(9/11)、81.8%(9/11)、81.8%(9/11)であった。

【結論】当科に於けるLap PE術後成績は比較的良好である。現段階では、Lap PEは標準術式になりうると考える。